

自立支援施設訪問、職員研修

ドリーム カム ホーム

〒852-8008 長崎県長崎市曙町 28-42

助成事業の概要

勤務などの都合や先方の都合で職員研修（三班）としてそれぞれの担当者が訪問した。

○東京シューレ葛飾中学校（東京都葛飾区新小岩）に10月11日、ホーム長 川井健蔵、指導員 櫻井祥子、自費で長崎市議会議員 吉村正寿氏の3名が訪問。

○自立援助ホーム（マルコの家・・・栃木市沼和田町）を10月11日川井健蔵、櫻井祥子が訪問。

○NPO法人さいたまユースサポートネット（さいたま市若者自立支援ルーム・地域若者サポートステーションさいたま・さいたま市生活保護学習支援教室）10月12日、川井健蔵、櫻井祥子が訪問。

○自立援助ホーム（マラナ・タ・ハウス・・・東京都国分寺市並木町）を10月28日川井健蔵、松下要次郎が訪問。

○自立援助ホーム 埼玉地区の懇親会に10月28日櫻井祥子が参加。

○東京都国分寺市の無料学習塾とさいたま市生活保護学習支援教室を10月28日種岡飛翔が訪問。

○自立援助ホーム（マルコの家・・・栃木市沼和田町）を11月27日に山口玲子が訪問

○2014年の3月に貧困問題についての講演会（講師・中塚久美子氏、朝日新聞大阪本社）を開催。講演会のなかで報告会を開いた。

事業の成果

各施設の見学・訪問やドリーム カム ホームでの問題点に質問することによって、たくさんの新しい発見や改良・工夫することが見つかった。これらの改良点にはお金がかかることもあり、すぐにはすべてを改良することができないが、できることから始めたいと思っている。ドリーム カム ホームでは高校・大学進学に重きを置いている。しかし学習時間に歩き回ったり、隣の席の人に話しかけてほかの児童の学習をじゃまする児童がいる。この児童は周りのことや児童が気になり集中することができないことはわかっていて、この児童が歩き回ることを防止することが緊急課題であった。見学先で衝立のある机を見たときに目からうろこが落ちるように、机に衝立を設けることで学習の能率を上げることができないかと考えさっそく導入をすることを決めた。

自立援助ホームに入所している児童においては職員が振り回されて苦しみ、児童の生い立ちを知り悲しみ心が裂けそうになる。自立援助ホームの壁や窓ガラスは壊れている。今までは自立援助ホーム交流や見学の機会がなかったが、この機会にお互いに意見交換の場を設けた。ドリーム カム ホームだけではなくどの自立援助ホームも同じ悩みや苦しみを抱えていることで本音が話せたことによって明確ではないが自立援助ホームの霧が少し晴れたように思えた。今後密に連絡を取り合うことで帰途についた。

無料学習塾ではボランティアの確保が運営上必要

であったがボランティアに質の向上してもらうことへの訓練方法を教えてもらった。今までは最初からボランティアの質を求めようとしていたがボランティア自身が向上しなければならないことに気が付けるように指導をしていく。

そのほかさまざまなことに気がつかされた。各施設を訪問した職員などで意見を出し合い、検討を加え、今後の活動に役立てる。

ていくことは大変難しく、中学卒業では良い就職に就くことは不可能に近い。そこで児童・生徒が貧困の連鎖に陥らないように生活の安定と安心できる居場所創りを目指し、寄り添い・見守りが必要な児童・生徒に必要な支援を行いたい。

■ 成果の広報、公表

2014年3月に2014年度 ドリーム カム ホーム主催の第2回 貧困問題の連鎖（子ども・教育と貧困問題を考える）についての講演会（講師・中塚久美子氏。朝日新聞大阪本社）をおこなった。

講演会の冒頭で各施設を訪問したときの得たことや感想及び各施設の良き点をいかにドリーム カム ホームで展開していくかを説明した。そしてドリーム カム ホームの現状を正しく理解していただき、できるだけのご協力をお願いした。

また毎週水曜日にドリーム カム ホーム担当の長崎市民FM放送で放送をした。

■ 今後の展開

ドリーム カム ホームはすべての児童・生徒が問題を抱え、不登校・高校中退・ひきこもり・ニートなどに陥らないように支援することを基本理念としています。そのためにどのような生活環境におかれた児童・生徒でも中学校で学業を終えることなく、あるいは高校中退で学業を終えることなく、社会に必要な最低の学歴として高校卒業をすることを支援すること目的としています。

しかし親の経済格差が児童・生徒の学力格差に比例している。このことが貧困を生み、貧困の連鎖を創り出している。中学卒業で社会（就職）にで